

2013年秋がやっと始まりました。カシミヤのUTOは今が新年みたいいなものです。

2020年の東京オリンピックが決まりました。久々に明るい話題ですね。1964年のときは14歳の中学生で、聖火リレーを伴奏で走ったことが甦ります。あのときもらったメダルはどこへ行ったんだろう。そういえば聖火リレーで走った後、初めてあの薬の味がするココロを飲んで、よくこなまらずいものを飲んでいると悪態をついたことが懐かしい。日本の高度成長のきっかけはあのオリンピックでした。景気は気からとよく言われますので、この明るい話題で長かったデフレ気分を吹き飛ばしましょう。

*** 楽天サイト・リニューアル ***

楽天サイト・リニューアル すつきりして、ショッピングしやすいサイトです。是非訪れてみてください。今後ともどうぞよろしく願います。 <http://www.rakuten.ne.jp/gold/uto-knit/>

*** 新工場へ引越しました ***

2005年に山梨で工場をスタートし、12年10月に北上市立川目に引っ越してきました。場のないほど狭いなかで生産していましたが、何とか広いところを探していましたが、北上市のおかげで広いところを探していただきました。北上市下江釣子というところです。以前の5倍もあるスペースで、駐車場も広く、工場の周りをナナカマドが囲んでいます。今は青葉がきれいで、秋になると真っ赤な葉と葉がきれいだと思えます。北上川の支流の和賀川を望む高台で、すぐ下が田んぼで、とっても眺めのいい処です。

工場での投資優先順位として第一位はスペース、第二が編み機の増設、第三が増員を予定していました。先月島精機の編み機を一台入



ツマグロヒョウモン

れたので次は人を探さなければなりません。少ない人数で頑張ってくれているのですが、それは小さな財布との相談です。なかなか進みません。

斜めストール マフラー

No. 2312-3055 ¥18,900.- (税込価格)



かシヤ100% 20色展開 約170cmx50cm
端が斜めのためにきれいなウェーブがお洒落です。
きれいな斜めのラインを出すのに苦労しました。

UTO kitakami レディス フード付きロングカーディガン

No. 2112-2053 ¥61,950.- (税込価格)



カシヤ100% 10色展開 ・フリーサイズ
UTOで人気のデザインが量産のUTOkitakamiブランドに登場です。ボリュームたっぷりですが、良質のカシヤで軽くて気持ちいい。軽く羽織って、散歩のときにおすすめです。

UTO メンズ ケーブル柄カーディガン

No. MUAC-5138 ¥115,500.- (税込価格)



カシヤ100% オーダーメイド
UTOで今季人気の製品です。
ざっくりとした編み地がハイセンスな着こなしを演出します。
オーダーについて詳しくはお気軽にお問い合わせください。

【青山・表参道境界】

UTOはこんな街から発信しています

高樹町通り (骨董通り)

高木主水さまお屋敷跡



青山という地名は、この通信十一号の『青山さん宅の青山』で書いたように、青山忠成という人が徳川家康から『馬で一周した土地を屋敷として与える』といわれて、馬が倒れる迄走らせて拝領した、青山家の下屋敷だったので青山と呼ばれることになったそうですが、今回の高樹町も戦国時代の武将に因むものです。

最近では町名変更ですっかり変わってしまいましたが、昭和三十一年の地図では、UTOのある南青山五丁目には『赤坂青山南町六丁目』で、すぐ隣は根津美術館辺りも含め『赤坂青山高樹町』という町名になっています。今でも写真のようにこの通りの標識は高樹町通りとなっていて、骨董通りは通称の名前とされています。

高樹町の由来は、江戸時代に高木主水正(たかぎ もんどのしょう)の屋敷があったところでその名前がついたそう。骨董通りを抜けて六本木通りに入ったところに高速の入り口があります。この名称が高樹町で、昔の名残が残っています。

歴史は好きだし、自分たちが毎日仕事をしているところの地主さんというか、もと屋敷の主の高木主水正と言う人はどんな人だったんだろうと興味があります。
初代高木主水は尾張に生まれ、徳川氏に使える小牧長久手の戦いをはじめ色々な戦功があったようですが、譜代大名になるような名家ではないので徳川家康の物語などにはあまり登場しません。

高木家は丹南藩一万石の大名で明治の廃藩置県まで領主で、最後の藩主は十三代目子爵だったそうです。丹南藩は私にはあまり馴染みのない名前ですが、現在の大阪府松原市だそうです。

その高木主水の記述を見つけたときはにんまりし、思わずメモしました。
それは、講談社・山岡庄八歴史文庫の第十巻『夢想門の巻』の小牧長久手の戦いのシーンです。

小牧長久手の戦いは豊臣秀吉との戦いですね。高木主水正は初陣だったよう。高木主水正は初陣だったよう。

秀吉との合戦で、家康が... 『夜が明けたら、なによりも先に堀勢の位置を確かめ、これはこれで、別に攻撃をかけねばならぬ。内藤四郎左と、高木主水は、その用意を』家康が命じているときに、ワーツとどこかで関の声があがった。

たったこれだけですが、このシーンを見つけたとき、『アツ、青山の高木さんが出てきた!』と、今までは単なる活字だった歴史の記述が、一人の血の通った武将に出会ったよう、ととても親近感が沸いたのを覚えています。

でも、この山岡庄八の小説は大好きで、今までに3回も読んでるのに、気がついたのは今回が初めてでした。やはり自分が青山の元高樹町にいたことが気づきの元だったんですね。

* カシミヤとニットの話* (44)



新工場へ移転し、広くなりました！！

岩手県北上市下江釣子 ナナカマドが取巻き、北上川の支流が見える眺めの良い高台にあります

UTOのカシミヤの暖かさは 彼女達の 手のぬくもりにあるのかもしれませんが



忙中暇話・ニット屋のたわごと

出張での北上散歩



旅行好きが請じて旅行屋になり世界中を飛び回ってたくらいですから泊りがけの出張は苦にならないほうです。独立する前はニット・アパレルの営業の責任者をやっていたので、プティックを訪ねるためにそこそこ日本中の県庁所在地をはじめ多くの街を訪れました。行っていないのは島根県の松江と和歌山くらいだと思います。

出張で新たなところに行くと土地の食べ物やお酒が楽しめという人は多いのですが、私の場合は完全下戸のために夜の街は皆無。早寝早起きが習慣で、早朝その町を散歩するのが出張のひそかな楽しみでした。

このころは出張はぐんと少なくなりましたが、工場を岩手県北上市に移転してから月に一回ぐらいの頻度で北上に行く機会が出来ました。

北上での泊まりはほとんど駅の周辺ですが、駅の裏が北上川で、水量が多く豊かに流れる北上川の流れを眺めながらの散歩が大好きです。

生まれ育ちが九州の長崎県島原、島原は半島で、普賢岳の噴火の悲劇で知られたように、頂上から石が海辺まで転げ落ちるほどの急峻で狭い土地ですので、北上川のように水量が多く、滔々と流れる川はありません。また、東京辺りの川岸がコンクリートでガチガチに固められているのと違い、河岸が自然の草木で覆われている様が気持ち落ち着かせるので、冬場や悪天候以外は散歩に出るのが楽しみです。

北上川の対岸には北上で有名な展勝地公園があります。この桜は東北の3大桜と評される名所ですので並木が見事です。この公園の桜並木のはずれにレストハウスがあり、だいたいここまでの往復で、おおよそ2時間のコースです。

北上川は明治以降鉄道などの陸上運輸が発達するまでは水運で重要な役目を持っていたそうです。

江戸時代始めの頃から、南部藩盛岡から太平洋岸の伊達藩石巻まで主に南部の年貢米を江戸に運び出す為の水運の大動脈を果たしていたそうです。

くんだり3、5日、のほり1、4日だったそうですが、「こ北上は黒沢尻と呼ばれる中継地で南部藩の御用倉があり、ここから上流の盛岡までは川底が浅く、石巻から上ってきた平田舟がここで小練舟と呼ばれる船底の浅い舟に積み替えて上ったそうです。復元された平田舟がレストハウスの横に浮かんでいます。川舟としては想像以上の大きさです。川の流れと緑、癒されるお勧めの散歩コースです。

世界のホテルを旅する (四十四)

元、旅行屋のお勧め

奈良・奈良

奈良ホテル

『日本を代表するホテルは何処ですか?』こんな質問が大げさならば、『貴方の親しい外国からのお客様が日本にやってきたら、どのホテルに泊めてあげたいか、ひとつだけ上げてください』と言われたら、どのホテルをお勧めしますか? 私なら奈良ホテルと答えます。

日本を代表する古都 奈良にあるということもありますが、日本独特の伝統的スタイルの建物や内装を整えた日本を代表するホテルだと思っています。

1909(明治42)年創業。約一世紀前に日本の西の迎賓館として建てられた総ヒノキ造り2階建てのクラシックホテルです。外国人から見たら日本の伝統的な建物のシャトーホテル? と映るのではないでしょうか?

奈良の歴史的な建物との調和を一番に考えた色調やデザイン、特に屋根の美しさは出色です。そういえば東大寺、唐招提寺なども屋根の美しさが特徴のような気がします。

位置的にも東大寺や春日大社のある広大な奈良公園のすぐ近くにあるので、歴史の中にタイムスリップしたような錯覚を覚えるぐらい歴史的環境にじっくり溶け込んでいます。古さからは7・8世紀の東大寺や唐招提寺には比較にはなりません。100年前に建てられたこのホテルは既に古都奈良の歴史的建造物として存在していて、まさに奈良ホテルは『日本の古都奈良を表現しているホテルだなぁ』と思います。



『野生のエルザ』という、ライオンと人間の生活を書いたジョイアダムソン婦人を日本に招き、一緒に日本を旅行した時に京都・奈良を訪れることになり、是非泊まってもらいたいと予約したのが、京都は日本旅館の俵屋で、奈良はこの奈良ホテルでした。婦人といっても当時80歳になる何にも興味をもつお茶目でチャームिंगなおばあちゃんでした。1975年のことでした。

久しぶりに奈良ホテルに泊まりました。『お変わりなく』という感じで変わっていないのが何より嬉しくなりました。泊まった翌日の早朝、観光客が来る前の奈良公園の散歩が最高でした。東大寺の壮大な南大門をくぐり、大仏殿の本堂の外から大仏様を拝んで二月堂への道を登ります。桜の常緑が茂る櫻やかな登り道。大仏殿の鐘楼に立ち寄って、三月堂と呼ばれる法華堂、二月堂への緩い階段を上ってゆくとお水取りの映像が見られた二月堂が現れます。

二月堂の回廊からの眺めが素晴らしい。『さそくゆくり』と言わんばかりに長椅子が置かれ、朝露の中に大仏殿の堂とベンチが輝いている様は、思わずオォーと声が出るくらい美しい。